

関連集会「アルガムムービー鑑賞会」開催後記

土金勇樹¹・早川昌志²

多くの藻類学研究において、ムービーを用いた観察や解析が増えています。しかしながら、紙媒体の論文では、データになったとしても、ムービー自体はサプリメントデータとして、埋もれてしまうのが現状です。また、直接、研究成果に結びつかなくても、他の人が見たことがないような藻類映像をパソコンの中に眠らせてしまっている研究者も多くいると思います。このような、発表済/未発表映像を、藻類学会の会員同士で鑑賞することで、ムービーを用いた観察の有用性を理解し、観察技術の共有を行う場が必要であると我々は考えました。そこで、日本藻類学会第38回大会の関連集会として、2013年3月14日、藻類学研究の更なる発展を目指すことを目的とし、本鑑賞会は開催されました。本鑑賞会では、多くの研究者の方々にご協力いただき、ムービーのみの提供も含め19作品を上映・鑑賞することができました。今回は、内容に関する制限を行わずに、藻類に関連したムービーの提供を求めました。そのため、藻類の生態を捉えた映像はもちろんのこと、採集風景や、藻類の発生をクレイアニメーションにして表現したもの、更には藻類の枠を越えて、さまざまな原生生物たちの生きた姿を捉えたものまで、想像以上に多様な内容で充実したプログラムとなりました。そのどれもが、写真では伝わらない、迫力と示唆に富んだ生物の生き様を捉えており、映像に納められたそれぞれの生物に興味がかき立てられました。当日のプログラムをここで記載します。

プログラム

土金勇樹 (日本女子大学) 「AlgalSex」
 ムービーを使った研究1 (招待講演):野村真未 (筑波大学) 「ポーリネラ・クロマトフォラ」
 石川依久子 (理化学研究所) 「超高速ビデオ顕微鏡映像」
 奥田一雄 (高知大学) 「タンボヤリ (*Chamaedoris orientalis*) の分割細胞分裂」
 豊岡博子 (紹介) (東京大学) 「マイクロワールド; 緑の宝石 ボルボックスの秘密」
 新垣陽子・川船かおる・菅澤瑞穂 (東京大学) 「ボルボックス目の藻類達」
 加藤将 (神戸大学) 「シャジクモ採集」
 末友靖隆 (岩国市立微生物館) 「微生物いろいろ」
 早川昌志 (神戸大学) 「Predator vs. Symbiosis」
 ムービーを使った研究2 (招待講演):梁瀬隆二 (兵庫県立大学) 「ロクロクビムシ *Lacrymaria*」
 ムービーを使った研究3 (招待講演):桐間淳也 (兵庫県立大学) 「ミズヒラタムシ *Euplotes*」
 山本広美 (沖縄美ら海水族館/沖縄美ら島財団) 「ホンダワラの仲間が孢子から育つ様子」

(紹介) 「スマホ顕微鏡 *Leye* の使い方」
 山口愛果 (神戸大学) 「捕食性ミドリムシ *Rapaza viridis*」
 上田真由美 (甲南大学) 「ラビリンチュラ」
 橋村秀典 (京都大学) 「細胞性粘菌」
 丸川祐佳 (株式会社ユーグレナ) 「ミドリムシの光驚動運動と細胞分裂」
 太田修平 (東京大学) 「クロララクニオン藻の細胞分裂とヘマトコッカス藻のアスタキサンチンの移動」
 河地正伸 (国立環境研) 「高速ビデオ装置で撮影したハプト藻のハプトネマの動き」
 浜地貴志 (京都大学) 「PLATYDORINA」
 藤原陽一郎 (愛媛生態系保管理) 「カスミ動画およびシャジクモ採集」

本鑑賞会では、途中参加や途中退場を含め、37名の方々に参加いただきました。多様なディスカッションを通して、ムービーを用いた解析の有用性を理解・共有出来たと思います。アルガムムービー鑑賞会の遂行にあたり、ムービーを提供いただいた皆様、参加していただいた皆様、こころよく会場を提供くださった船橋大会の準備委員会の皆さまに感謝申し上げます。また、全作品の上映後、参加者を対象に「最も印象に残ったムービー」を調査したところ、兵庫県立大学の梁瀬隆二さんの「ロクロクビムシ」が最も票を集めました。実際、その挙動と、個体の一部を切除して動きを観察するその実験過程は、これまで見たどの生き物の動きにも当てはまらず、実に衝撃的でした。そして、岩田いづみさんと藤原陽一郎さんの2名の参加者の方々と、アンケート1位となった梁瀬隆二さんに大会後記の執筆をお願いしましたので、ここに載録いたします。

(¹ 日本女子大・² 神戸大)

日本藻類学会第38回関連集会アルガムムービー鑑賞会に参加して

岩田いづみ

本集会は、2014年3月14日に、東邦大学理学部で行われました。集会の内容は、普段日の目を見ることのない藻類映像を会員一同で鑑賞し、藻類学研究の更なる発展を目指すことを目的として行われ、発表者は藻類に関連する5-10分程度のムービーを作成し、発表しました。

普段、私も研究室でタイムラプスなどによって観察をしており、研究で扱っているラビリンチュラ類をみなさんに知ってもらう良い機会だと考え、研究室からとして発表をしました。ムービーならではの表現に、苦戦しながらなんとか作成しました。

会場には各参加者が持ち寄ったお土産が並んでおり、飲み物や食べ物を手を持ちながら、アットホームな雰囲気のなかで日

本女子大の土金勇樹先生の司会により会は進行していきました。上映された映像では微細藻類のコミカルでかわいらしい動きから、タンポヤリの分割細胞分裂などの大型藻類の息をつくような美しいムービーなど様々な生き物たちの発表があり、とても癒されました。また、具体的にムービーを使って研究にどう活かすのかを学ぶことが出来、参考になることが多くありました。アルガルムービー＝“生き物の動きのムービー”という印象で考えていた私は、アクチンやアスタキサンチンといった、細胞内の物質の動きを可視化したり、普段は見ることのないサンプリング風景を映像で見たりといった発表に、ムービーの活用の幅の広さを強く感じました。発表の中で、私が最も印象に残ったのはロクロクビムシ・ミズヒラタムシ、粘菌といった原生生物の映像でした。原生生物たちのダイナミックで俊敏な動きに私は心を奪われ、同時に会場からも歓声が上がっていました。また、自分の発表がどう受け入れられるのか不安でしたが、自分の扱う生物たちの動きに歓声があがると嬉しくて、参加して良かったと感じました。終わってみるとあっという間の3時間でした。今後、この会が開催され続けることを強く願っています。

最後になりましたが、今回の集会を企画し、運営に尽力下さった日本女子大の土金勇樹先生、神戸大の早川昌志さんに深く感謝申し上げます。また、お忙しい中、集会を準備下さった船橋大会の大会準備委員会の皆様に深く感謝申し上げます。

(甲南大)

アルガルムービー鑑賞会に参加して

藤原 陽一郎

愛媛においては希なる深夜に起きた、地震の興奮冷めやらぬ故郷の地を後にし、初めて習志野の地に足を踏みしめたのですが、迎えてくれたのはどこか懐かしさを感じさせる、昭和の佇まいを残した大久保商店街でした。ピタゴラスの定理を思い起こさせる小さな斜路の終わるところ、そこが東邦大学習志野キャンパスです。

この地は、明治時代には陸軍の演習場のあったところで、キャンパス内には郷土出身の軍人秋山好古が指揮した騎兵第十三連隊記念碑発祥の地記念碑が、ひっそりと建立されており、初めて訪れた習志野の地との縁を感じさせる情景でした。

さて、鑑賞会ですが、研究歴の浅い我が身にとっては、初めて知る分類群の発表は新鮮この上なく、加えてムービーによる

視覚的効果も加わり、一観客として堪能させていただいたのが正直なところです。

私は、人生の節目ごとに細くはかない経糸を張ってきました。その度に、数多くの方に知り合い、勉強させていただきながら、出会うが緯糸となり一枚の布としの模様を紡ぎ出させてもらっています。今回の鑑賞会でも神戸大学の早川昌志氏をはじめとする若手研究者の諸君たち刺激的な発表だけでなく、サロンのような語らいの場での語らいでも新しく見聞きすることばかりで、新たな緯糸により新たな模様を紡ぎ出せる予感のする鑑賞会でした。

いつの日か、私の研究テーマである車軸藻類の卵胞子の螺旋模様のムービーを携えて、誰かの緯糸になることを夢見て。

(特定非営利活動法人 愛媛生態系保全管理)

アルガルムービー鑑賞会参加後記

梁瀬隆二

私の専門は藻類ではないのですが、原生動物学の立場から、「ムービーを活用した研究」についての特別講演ということで、アルガルムービー鑑賞会にて発表をさせていただきました。私が研究しているのはロクロクビムシと呼ばれる繊毛虫です。ロクロクビムシはその名の通り、伸び縮み可能な首を持ち、この首を素早く動かして獲物を捕まえるとても変わった生き物です。私がこのロクロクビムシに興味を持ったのは、学部生の時に現在の指導教官である園部先生の講義で、ロクロクビムシが動き回るムービーを見せて頂いたことがきっかけです。単細胞生物とは思えないロクロクビムシの運動に、このような生物がこの世に存在するなんて…と大変衝撃を受けました。ロクロクビムシのようなマイクロ生物たちの動きは普段目では見えないものでありますが、彼らの動きはバラエティー富んでおり、生命の不思議さ、面白さを最も率直に伝えてくれるものではないかと思っています。そして、ムービーは顕微鏡でしか見えない彼らの動きを切り出し、みんなに伝える最高の手段であると思います。今回、アルガルムービー鑑賞会に参加させて頂いて、ムービーを用いた研究の面白さ、未知の生命現象解明における有効性を再確認することが出来ました。また、藻類研究者の皆様にもロクロクビムシに興味を持って頂けて大変嬉しく思います。最後になりましたが、会の主催者である日本女子大学の土金勇樹様、神戸大学の早川昌志様には厚くお礼申し上げます。

(兵庫県立大学)



参加者記念撮影



聴講する参加者